

令和7年度2回国立大学法人静岡大学経営協議会議事要録

日 時 令和7年6月24日（火）14時00分～16時00分

場 所 S-Port 3階大会議室

出席者 赤塚、岩崎、大石、加藤(Web 参加)、鈴木、野田(Web 参加)、牧田、三輪の各委員
日詰、塩尻、金原、二又、大石、鈴木、佐藤、大島、吉川(Web 参加)の各委員

欠席者 大須賀、平木の各委員

陪席者 高倉(Web 参加)、大橋、栗井(Web 参加)の各副学長、飯田監事

I 前回議事要録の承認

令和7年度第1回国立大学法人静岡大学経営協議会議事要録（案）を原案どおり承認した。

なお、塩尻委員から、前回会議で委員から質問があった令和7年度入学者の静岡県出身者の割合について、説明があった。

II 審議事項

1 令和6年度決算について

佐藤委員から、令和6年度決算について、資料1により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

III 報告事項

1 令和6年度の静岡大学の主な取組について

議長から、令和6年度の静岡大学の主な取組について、資料2により報告があった。

2 令和6年度監事業務監査改善要望事項に対する役員会の基本方針について

二又委員から、令和6年度監事業務監査改善要望事項に対する役員会の基本方針について、資料3により報告があった。

(委員から出された意見等)

岩崎委員：資料の役員会の基本方針の書きぶりが非常に曖昧である。

加藤委員：大学運営を推進するには戦略が必要。戦略を立てるにあたり静岡大学の執行部には十分なメンバーが揃っているのか。

議長：学長を中心として執行部が明確な戦略性と将来ビジョンをもって取り組んでいる。資料には具体的な記述はないが、現在未来創成ビジョンの実現に向けたロードマップを策定中であり、構成員に明確な方針を示し、一体となって推進していく。

加藤委員：大学の構成員のみでは乗り越えるのが厳しい局面であると思う。経営戦略とそれを実行していく手法が分かっている経営の経験者をメンバーに入れていく必要があるのではないか。

議 長：大学運営において、経営面に関しては経営協議会の外部委員の意見等をいただきながら進めていきたいと考えている。場合によっては経営に造詣の深い方を招くなど、いろいろな方の意見等をいただきながら大学運営を進めていく。

野田委員：6つの改善要望事項について、優先順位や納期を教えていただき、進捗状況を報告いただきたい。

議 長：いずれも重要なことであるため、一つひとつ取組を進めていきたいと考えている。進捗状況を経営協議会で報告していく。

大石委員：浜松医科大学と取り交わされた合意書は法人統合・大学再編の協議を始めるための手続き的なものと捉えている。以前に本会議で発言したとおり、合意書には実質的な合理性がほとんどないので、この点の理解を得てから協議をしなければ議論は進まないと思う。

議 長：静岡県に貢献するため、二つの国立大学がどのような連携をするのが相応しいか協議していきたいと考えている。

鈴木委員：それぞれの要望事項について、担当役員がとりまとめるだけでなく、すべての役員が自ら方針を考え、全学を挙げて一枚岩となりスピード感を持って取り組み、より良い大学を目指していただきたい。

岩崎委員：静岡大学がどのような大学を目指しているのか、大学全体のビジョンや方向性を浜松医科大学にも説明し、この経営協議会の構成員にも示していただきたい。

3 令和6年度資金運用状況について

佐藤委員から、令和6年度資金運用状況について、資料4により報告があった。

4 令和8年度施設整備費補助金概算要求等について

佐藤委員から、令和8年度施設整備費補助金概算要求等について、資料5により報告があった。

IV 懇談事項

1 静岡大学の研究戦略について

金原委員から、静岡大学の研究戦略について、資料6により説明があった。

(委員から出された意見等)

赤塚委員：全33のプロジェクト研究所について、シームレスな支援が必要である一方で支援にも限界があることから、成果が見込めないものについては研究所を集約するなど、研究所の数をコントロールしているのか。また、研究者の自由な発想で遂行するのが研究であることから、この点を階層型組織研究推進システムにどのように落とし込めているのか。

金原委員：プロジェクト研究所は、研究者が自発的な発想を基に設置するものであるから、研究者自身が資金を持ち込んでくるものが多い。また、将来性のある研究シーズについては、様々な支援をしていきたいと考えている。

佐藤委員：プロジェクト研究所は静岡大学の特色ある取組の一つで、研究者の自

発的な発想による研究所を設置し、発展していくものであるため、研究成果の社会実装に向けて、様々な支援を検討している。

野田委員：研究成果の社会実装がゴールであるのであれば、そこで生まれる経済効果により、静岡大学に還元できるような仕組みになるように検討していただきたい。

牧田委員：階層型組織研究推進システムの内容は理解したが、「研究戦略機構」という名称の持つイメージと実態が合っていないのではないかと。同機構において限られた資源や資金をどこに投入するのか、選択と集中が行われているのであれば、実態と合ってくるのではないかと。

V その他

1 静岡大学関連記事

議長から、静岡大学に関連する新聞記事について、参考資料として紹介があった。

以 上